

令和２年度 第１回 行財政改革推進会議

議 事 要 旨

〔日 時〕 令和２年９月１５日（火） 午後６時３０分

〔場 所〕 昭島市役所 ３階 庁議室

〔出席者〕

１ 委員

小池満也委員長、田中啓之副委員長、坂村一登委員、山下俊之委員、和田篤彦委員

２ 事務局

永澤企画部長、横山行政経営担当課長、和田公共施設再編・調整担当係長

３ 傍聴者

なし

〔配付資料〕

- ・第１回行財政改革推進会議 日程
- ・【資料１】令和元年度評価シート（案）

〔議事要旨〕

１ 行財政改革推進プランの計画期間について

次期総合基本計画について、今年度中に策定し、来年度から計画期間に入る予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う今後の財政状況や新しい生活様式への対応等、計画内容を精査するため、来年度中の計画策定、令和４年度から計画期間とする方向性となった。これに伴い、第五次総合基本計画の計画期間を１年延伸（令和３年度まで）することとなる。

このため、本プランも総合基本計画と連携する形で計画期間を１年延伸することとしたい。

なお、それに伴い、本委員会の委嘱期間も令和３年度の評価（令和３年度末頃）までとする。

（各委員 了承）

２ 今後のスケジュールについて

- ・令和２年度会議…令和元年度の評価を実施
- ・令和３年度会議…令和２年度・令和３年度の評価を実施

３ 令和元年度の評価について

令和元年度の評価について、事務局より【資料１】令和元年度評価シート（案）に沿って説明。その後、各委員より質疑。

〈質疑応答〉

全体事項

- ◆ 全体の評価シートに違和感を感じている。取組項目ごとに評価があり、総合評価があると分かりやすいが、中身を一つずつ見るとこれはA、これはBというものもあると思う。【山下委員】
- 評価シートの作りについては一度検討する。【事務局】
- ◆ 今年度の評価シートは3箇年（平成29年度～令和元年度）の評価になるのか。令和元年度の単年のみの評価を行うのか。来年度は令和2年度・令和3年度の評価を行うのか。【田中副委員長】
- お見込みのとおりである。今年度は令和元年度の評価、来年度は令和2年度・令和3年度の評価を行う形で考えている。【事務局】

1－（1）安全・安心なまちづくりの推進

① 危機管理体制の確立

- ◆ 感想に近い意見だが、評価としてはA＋（プラス）と理解している。理由はアレルギー対応食の準備や、新型コロナウイルス感染対応の実施など新しい事態に対して取組を実行している。時代の要請に対して敏感に反映した危機管理体制をとっているため、もっと高く評価してもいいのではないかと。今後は、机上の訓練等も実施すると良いと考える。【和田委員】
- 防災は昭島市の重要な課題の一つとして認識している。令和2年度においてもグリコ乳業と提携して液体ミルクを常温で保存して、賞味期限が近くなったら保育園等に提供する協定を行った。【事務局】
- ◆ あえて言えば防災訓練の参加人数が毎年減少しており、内容がマンネリ化している。参加者を増やすには開催内容の工夫も必要と考える。【和田委員】
- 平成29年度はトリアージの取組、平成30年度は避難所運営委員会の設営をした。たくさんの人を集めるとなると、コロナ対応も考えながら、やり方は変えていく必要があり、令和2年度は避難所ごとに少人数で実施する予定である。【事務局】
- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策本部の設置ということだが、大きい市は担当部長を置いて対応している。対策の具体的な内容についてはシートでは触れないのか。【山下委員】
- 事務局としては防災課と健康課で担当することになっており、担当職は置いていない。しかし、危機管理担当部長を平成31年4月から設置しており、3月に対策本部を立ち上げた。3月中は公共施設の休館等の情報発信を行うなど、限られた情報の中での対応となった。【事務局】
- ◆ 設置したことによりどのような効果があったのか、何か取組内容の記載が欲しい。【山下委員】
- 3月中は公共施設の休館、学校対応、消耗品、消毒薬、マスクの購入に追われていた。全国的に不足している中、昭島市でも不足している状態であった。【事務局】
- ◆ 評価（案）の欄に水防対策の見直し記載があるが、取組項目の欄に記載がないため、盛り込んだほうが良いと思われる。【田中副委員長】
- 内容を追記する。【事務局】

1－（１）安全・安心なまちづくりの推進

② 地域の防犯・防災対策の推進

- ◆ 特殊詐欺防止対策による自動通話録音機だが、今後はどの程度の配布を予定しているか。【山下委員】
- 警察より市民への配布を対応してもらっている。現在年間 220 台程度だが、これくらいが警察の対応の許容範囲として捉えている。【事務局】
- ◆ 設置したことの効果は出ているのか。【山下委員】
- 平成 27 年…22 件 6,000 万、令和元年…19 件 1,460 万円、件数はそこまで変わらないが、被害総額は年々減少しており、抑止効果は出ているものと思われる。【事務局】
- ◆ 防犯カメラは今後も公共施設へ設置していくのか。【田中副委員長】
- 平成 30 年度に朝日町高齢者センターでの火災が契機となり、市民の安全、防犯の観点から令和 2 年度から 4 年度にかけて公共施設への設置を計画している。各施設担当課へ照会し、設置の必要性を確認している。令和元年度は学童クラブを中心に設置した。【事務局】

1－（２）積極的な情報発信

① 効果的・戦略的な情報発信の推進

- ◆ ホームページについて、昨今オープンデータの掲載が増えてきているため、統計データ等について、PDF、エクセルデータ等が公開していると良い。【田中副委員長】
- 昨年のホームページリニューアルに合わせて実施したかったが、現在調整を進めており、課題として認識している。【事務局】

1－（３）多種多様な連携・協力の推進

① 市民との連携、参画・協働による街づくりの推進

- ◆ 自治会設立の取組努力をしていると考える。取組内容が評価（案）の欄に記載があるが取組項目の欄に記載がない為、こちらにも記載をしたほうが良いと思う。評価も B だが、内容的にはもっと高くしても良いと感じた。【田中副委員長】
- 内容を追記する。【事務局】

1－（３）多種多様な連携・協力の推進

② 多種多様な連携・協力体制の充実

- ◆ 取組項目に空白があると何もやらなかったのかという印象がある。開催はしてなくても、検討したのであれば何らかの記載があると良いと思う。【坂村委員】
- 理由を記載する。企業との連携の項目を元年度から新たに追記した。今後取組の中で新しいものは追記して、評価しているものは残しつつ、将来的に実施しなくなった取組は消していくなど、見直しをしていきたい。【事務局】
- ◆ 産業活性の分野で考えると、新しい事業（所）がどの程度スタートしたのか、逆にどのくらいの事業（所）がなくなったのか、今後はコロナ禍で増えると思うが、市の活性化の観点で課題を探していくことが重要。マーケティングの考え方で淘汰される分野、逆に伸びていく分野もあるため、その部分で数字に表れてくると良いが。【小池委員長】
- 事業承継セミナーは商工会や多摩信用金庫との連携で開催を目指したと聞いている。今後は

近隣市である福生市と連携した形で開催を検討しているとのことである。【事務局】

- ◆ 開催することが目的ではなく、市がどのように活性化するかが問題だと思うので、担当課ともよく調整していただきたい。【小池委員長】

1－（４）窓口サービスの充実

① 窓口サービスの質的向上

- ◆ 評価案について、評価をBとしているが、主な取組のところでは2項目とも交付数は増えており、取組としてはAとしても良いと思うが、突然、A I、R P Aを活用していないからBというのは評価シートの作り方に違和感を覚える。本来は「A I、R P Aの活用」が評価項目になりとおかしいと考える。【山下委員】
- ◆ まったく同意見である。主な取組は平成 29 年度から始まっているため、付け加えることはできないと思うが、評価案の「しかしながら～」は消した方が良いのではないか。また、評価もAと考える。マイナンバーカードも2年前と比べて50%増、コンビニ交付も倍増している。【和田委員】
- 昨年評価していただいた中で、今後の取組の中でA I、R P Aの活用などを記載したため、評価をBとした。【事務局】
- ◆ 本来は取組項目の中にA I、R P Aについて入れればよかったと思う。【山下委員】
- ◆ 追加してもいいのではないか。【小池委員長】
- 承知した。取組項目を1つ追加する。A I、R P Aは他市町村の動向も気にしながら進めるが、遅れないようにしなくてはならないと感じている。業務改善の部分が他市に比べて弱いと考えており、Bの評価とした。【事務局】
- ◆ 評価方法、シートの作りについては他委員と同意見である。新しい取組を追加することも賛成である。業務改善については業務の中身を改善するというイメージがあり、窓口サービスの向上とは別の観点と感じている。今のコロナ禍においては窓口に行かなくても手続きが済むという状況がサービスの向上だと考えている。チャットボットによるQ&Aで問合せ内容が解決でき、来庁しなくても済む場合もある。ちなみに東京副知事が情報化に対して熱心のようなが、市への影響、動きはあるか。【田中副委員長】
- 情報化に対してはコロナ禍において議論は早くなっており、オンライン会議の導入ができないか検討している。チャットボットはごみ分別アプリで採用しているが、他分野も含めた検討が必要と考えている。【事務局】
- ◆ 双方向の通信システムにしていくことが効率化、窓口サービスの向上につながっていく。企業ではテレワーク中心であり、以前から準備していたわけではないと思うが、ズームを利用した会議も対応している状況である。【小池委員長】
- ◆ マイナンバー制度は様々な分野への利用が急速に広がっていった。行政としてデジタル化への対応をどうしていくか、庁内の体制、人力的な投資をしていかないと今後、昭島市は後れを取ってしまうのではないか。【和田委員】
- デジタル化へのプラン作りをする専門的な人材がおらず、外部委員もいるが市の方針が定まらないため、具体的な相談ができていない状況である。【事務局】
- ◆ 市の業務はテレワークが導入可能な定型業務は少ないのか。【小池委員長】
- セキュリティ面でデータの内容によっては持ち出せないため、現状では厳しい。どのような

業務のデータを持ち出しできるか整理が必要。現状ではデータを持ち帰ることはできない。【事務局】

- ◆ 窓口業務においては住民票の手続きをスマホ上で操作して、データを自宅でプリントアウトするなどできれば窓口へ行かなくても済む。【小池委員長】
- ◆ デジタル化はどの自治体も進捗状況は似たような状況であり、セキュリティやプライバシーの観点から待ったをかける人が必ずいる。【山下委員】
- 個人情報を守りながら、デジタル化を推進する必要があると認識している。【事務局】

1－（４）時代をとらえた街づくりの推進

② 基幹系システムの計画的な更新による最適化の推進

- ◆ 更新したことによるメリットが令和元年度にあったのではないかと考えるがいかがか。【山下委員】
- PC（OS）等機器の更新が中心となるため、劇的に作業効率が上がったということではない。導入後の効果をもう少し検証して評価をもう一度出させていただきたい。【事務局】
- ◆ ニーズとハードを整理したほうが良い。今回の更新にあたりどのようなニーズに基づいてハードを入れ替えたのか整理できていればもう少し記載ができるのではないか。【小池委員長】
- ◆ 平成30年度はハード面の機器の更新だったが、中身のシステム面の更新が伴わなければ、あまり効果がないと考える。項目をもう少し分解した形であればよかったが、昨年委員も指摘しなかった責任もあると思う。【和田委員】
- 情報推進の取組がハード面に比重を置いており、ソフト面が弱い状況である。追記を検討する。【事務局】
- ◆ データを解析して、それから新たなニーズを組んでいくようなサイクルをとれると、システム最適化の整理が取れるのではないか。ハード面の更新が終われば業務が終わりではなくて、データの蓄積や不具合の内容の検証も必要である。【小池委員長】
- 各担当課において、業務内容からソフト（システム）の必要性と更新時期を見極め、そこからハードの必要性を認識するような流れであればよいが、現状では今のソフト（システム）を継続的に動かしていくためにハードを更新するという流れとなっている。【事務局】
- ◆ データの分析から業務改善へつながる仕組みがあれば良いが、ハードだけ切替えてシステムは放置だと更新の効果はあまり高くない。【小池委員長】
- ◆ それ以外に質疑はあるか。他になれば本日の会議はここまでとしたい。
本日の各委員からのご指摘について、事務局で見直していただくところをご対応願いたい。

4 その他

今後の会議日程について、以下の日程での開催を確認し、閉会とした。

- ・第2回会議…10/30（金）午後6時30分～
- ・第3回会議…11/26（木）午後6時30分～